

出雲土建

木炭を防音材に

11月発売 建設コスト抑える

建設業の出雲土建(島根県出雲市、石飛裕司社長)は島根大学総合理工学部との共同研究で、独自開発した調湿用の木炭にマンション上階からの音を低減する効果があることを確かめた。割安に防音効果を得られる商品として十一月に発売する。

建設業の出雲土建(島根県出雲市、石飛裕司社長)は島根大学総合理工学部との共同研究で、独自開発した調湿用の木炭にマンション上階からの音を低減する効果があることを確かめた。割安に防音効果を得られる商品として十一月に発売する。

同社の調湿用木炭「炭八」を天井裏に敷き詰めて実験。上階で発生した六十ヘルツ帯域の重量床衝撃音を約五分減らすことに成功した。同社は三十日、木炭と建築構造の特許を申請した。

マンション上階からの低音を防ぐにはコンクリート層を厚くする方法が一般的だった。「炭八」の防音効果は厚さ三センチのコンクリートと同じレベルで、コストを抑えて防音効果を得られるという。

リサイクル木材を使つ

て製造しており、価格は一袋三千五百円。一平方メートル当たり六袋を使用する。出雲土建ではまず分譲マンション向けに販売、当初七カ月で八千万円の売り上げを目指す。